

伊藤若冲と
京の美術

細見コレクションの精華

平成26年9月13日(土)～11月3日(月・祝)

新潟県立万代島美術館

出品リスト(後期10/7～)

* 展示順に掲載しています。

(◎:重要文化財 ○:重要美術品)

都に遊ぶ一名所遊楽と祭礼の世界一

展示順	No.	作品名		作者	材質	員数	時代	備考
1	1	東山名所図屏風	ひがしやまめいしよずびようぶ		紙本金地著色	四曲一双	桃山時代	
2	2	北野社頭図屏風	きたのしゃとうずびようぶ	「椋政」印	紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	
3	6	東山四条河原遊楽図屏風	ひがしやましじょうがわらゆうらくずびようぶ		紙本著色	六曲一隻	江戸前期	
4	7	四条河原図巻	しじょうがわらずかん		紙本著色	一卷	江戸前期	
5	18	賀茂競馬図屏風	かもくらべうまずびようぶ		紙本金地著色	六曲一双	江戸末期	右隻
6	3	洛外図屏風	らくがいずびようぶ		紙本著色	六曲一隻	江戸前期	
7	5	祇園祭礼図屏風	ぎおんさいれいずびようぶ		紙本著色	六曲一双	江戸前期	
8	20	◎明恵上人仮名消息(井上尼宛)	みょうえしやうにんかなしやうそく(いのうえにあて)	明恵高弁	紙本墨書	一幅	鎌倉時代	
9	22	◎山王靈験記絵巻	さんのうれいげんきえまき		紙本著色	一卷	室町時代	
10	8	遊楽図扇面	ゆうらくずせんめん		紙本著色	十面のうち	江戸前期	
11	12	若松楓蒔絵提重	わかまつかえでまきえさげじゆう		木製漆塗他	一具	江戸後期	
12	10	桜幔幕蒔絵重箱	さくらまんまくまきえじゆうばこ		木製漆塗	一合	江戸前期	
13	11	菊花蒔絵十種香箱	きつかまきえじゆうしゆこうばこ		木製漆塗	一具	江戸中期	
14	9	遊楽図高坏	ゆうらくずたかつき		陶胎胡粉地彩色	一基	江戸前期	
15	13	薬玉図	くすだまず	土佐光孚	紙本著色	一幅	江戸後期	
16	14	合せ貝	あわせがい		貝・金地彩色	二対	江戸後期	
17	15	やすらい祭・牛祭図屏風	やすらいまつり・うしまつりずびようぶ	浮田一蕙	紙本著色	六曲一双	江戸後期	左隻
18	16	ちょうちょう踊り図屏風	ちょうちょうおどりずびようぶ	小沢華嶽	紙本著色	六曲一隻	江戸後期	

都の美意識 I - 王朝のみやび -

19	23	撫子図屏風	なでしこずびようぶ		紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	
----	----	-------	-----------	--	--------	------	------	--

展示順	No.	作品名		作者	材質	員数	時代	備考
20	21	時代不同歌合絵巻 断簡	じだいふどうたあわせえまき だんかん		紙本墨画	一幅	鎌倉末期	
21	19	○「貫之集」巻下 断簡〈石山切〉	「つらゆきしゅう」かんした だん かん(いしやまぎれ)	藤原定信	彩箋墨書	一幅	平安後期	
22	24	忍草下絵和歌巻 断簡	しのぶぐさしたえわかかん だん かん	本阿弥光悦 書 俵屋宗達 下絵	紙本墨書 金銀泥	一幅	江戸前期	
23	25	水葵下絵和歌色紙	みずあおいしたえわかしきし	本阿弥光悦 書 宗達派 下絵	紙本墨書・雲母摺り	一幅	江戸前期	
24	26	和歌短冊	わかたんざく	本阿弥光悦 書	紙本墨書・金銀泥	一幅	江戸前期	
25	27	歌仙絵色紙	かせんえしきし	小野通女	紙本著色	一幅	慶長二年 (1597)	
26	28	歌仙絵色紙「源順」	かせんえしきし「みなもとのした ごう」	岩佐又兵衛	紙本著色	一幅	江戸前期	
27	29	歌仙絵色紙「藤原仲文」	かせんえしきし「ふじわらのなか ふみ」	俵屋宗達	紙本著色	一幅	江戸前期	
28	41	定家詠月次花鳥図	ていかえいつきなみかちょうず	野崎真一	絹本著色	四枚	江戸末 ～明治中期	
29	31	伊勢物語図	いせものがたりず	野崎真一	絹本著色	四枚	江戸末 ～明治中期	
30	32	伊勢物語図扇面「河内越」	いせものがたりずせんめん「か わちごえ」	神坂雪佳	紙本著色	一幅	大正末 ～昭和初期	
31	30	伊勢物語かるた	いせものがたりかるた	伝 葛岡宣慶 書	紙本著色・紙本墨書	一具のうち	江戸前期	
32	39	小倉山蒔絵硯箱	おぐらやままきえずりばこ		木製漆塗	一合	江戸前期	
33	40	定家詠月次花鳥蒔絵重硯箱	ていかえいつきなみかちょうま きえじゅうずりばこ		木製漆塗	一合	江戸前期	
34	38	四季花木図屏風	しきかほくずびょうぶ	冷泉為恭	紙本淡彩	六曲一隻	江戸後期	
35	33	源氏物語図屏風「総角」	げんじものがたりずびょうぶ「あ げまき」	岩佐又兵衛	紙本金地著色	六曲一隻	江戸前期	
36	34	源氏物語図色紙	げんじものがたりずしきし		紙本著色	七面のうち	江戸前期	
37	35	狭衣物語絵巻 断簡(藤)	さごろもものがたりえまき だん かん(ふじ)		紙本著色	一幅	江戸前期	
38	36	狭衣物語絵巻 断簡(山吹)	さごろもものがたりえまき だん かん(やまぶき)		紙本著色	一幅	江戸前期	
39	37	清少納言観雪図	せいしょうなごんかんせつず	鈴木守一	絹本着色	一幅	江戸後期	

都の美意識Ⅱ－茶の湯の心－

40	44	墨蹟	ぼくせき	春屋妙葩	紙本墨画	一幅	南北朝時代	
41	42	墨蹟	ぼくせき	蘭溪道隆	紙本墨画	一幅	鎌倉時代	
42	43	墨蹟	ぼくせき	大休正念	紙本墨画	一幅	鎌倉時代	
43	46	利休消息	りきゅうしょうそく	千利休	紙本墨書	一幅	桃山時代	
44	45	○豊臣秀吉自筆書状(いわ宛)	とよとみひでよしじひつしよじよ う(いわあて)	豊臣秀吉	紙本墨書	一幅	天正十六 (1588)	
45	48	芦屋松藤図真形釜	あしやまつふじずしんなりがま		鉄製鑄造	一口	室町時代	

展示順	No.	作品名		作者	材質	員数	時代	備考
46	50	龍宝山鉄風炉	りゅうほうざんてつぷろ		鉄製鑄造	一口	桃山時代	
47	49	桜図肩衝釜	さくらずかたつきかま		鉄製鑄造	一口	桃山時代	
48	47	◎芦屋霰地楓鹿図真形釜	あしやあられじかえでしかずしんなりがま		鉄製鑄造	一口	室町時代	
49	54	志野宝珠形香合	しのほうじゆがたこうごう		施釉陶器	一合	桃山時代	
50	55	織部菊兜香合	おりべきくかぶとこうごう		施釉陶器	一合	桃山時代	
51	56	織部分銅形香合	おりべふんどうがたこうごう		施釉陶器	一合	桃山時代	
52	51	志野茶碗 銘「弁慶」	しのちやわん めい「べんけい」		施釉陶器	一口	桃山時代	
53	57	信楽水指 銘「赤富士」	しがらきみずさし めい「あかふじ」		施釉陶器	一口	江戸中期	
54	52	瀬戸黒茶碗 銘「鳴門」	せとぐろちやわん めい「なると」		施釉陶器	一口	江戸前期	
55	60	色絵唐子図筆筒	いろえからこずひつとう	尾形乾山	施釉陶器	一口	江戸中期	
56	58	錆絵馬図角皿	さびえうまざくざら	尾形乾山	施釉陶器	一枚	江戸中期	
57	53	黒織部沓形茶碗	くろおりべくつがたちやわん		施釉陶器	一口	江戸前期	
58	59	錆絵牡丹唐草文向付	さびえぼたんからくさもんむこうづけ	尾形乾山	施釉陶器	五客	江戸中期	
59	61	七宝舟形釣花入	しっぽうふながたつりはなれ		有線七宝	一口	江戸前期	
60	62	七宝八角水指	しっぽうはっかくみずさし		有線七宝	一合	江戸中 ～後期	
61	63	七宝手付菓子盆	しっぽうてつきかしぼん		有線七宝	一口	江戸中 ～後期	
62	64	七宝五七桐紋釘隠付風炉先屏風	しっぽうごしちきりもんくぎかくしつきふるさきびょうぶ		有線七宝(釘隠)	二曲一隻	江戸前期 (釘隠)	

若冲と都の絵師—華ひらく個性—

63	65	平家納経(模本)「化城喩品」「囑累品」表紙絵・見返し絵	へいけのうきよう(もほん)「けじょうゆほん」「しよくるいほん」ひょうしえ・みかえしえ	田中親美 俵屋宗達(原画)	紙本金銀泥著色	各一卷	江戸前期	
64	67	四季草花桜楓図屏風	しきそうかさくらかえでずびょうぶ	「伊年」印	紙本著色	六曲一双	江戸前期	
65	66	四季草花図屏風	しきそうかずびょうぶ	「伊年」印	紙本金地著色	六曲一双	江戸前期	左隻
66	68	墨竹図	ぼくちくず	尾形光琳	紙本墨画	一幅	江戸中期	
67	69	秋草図団扇	あきくさずだんせん	「成乙」印	紙本金地著色	一幅	江戸中期	
68	71	御所人形図	ごしよにんぎょうず	神坂雪佳	絹本著色	一幅	大正時代	
69	70	四季草花図	しきそうかず	神坂雪佳	絹本著色	双幅	大正後期	
70	72	若竹に小禽図	わかたけにしょうきんず	円山応挙	絹本著色	一幅	寛政七年 (1795)	
71	73	月下秋草図	げつかあきくさず	松村景文	絹本淡彩	一幅	江戸後期	

展示順	No.	作品名		作者	材質	員数	時代	備考
72	74	江口君図	えぐちのきみず	田中訥言 松村景文	絹本淡彩	一幅	江戸後期	
73	75	楚蓮香図	それんこうず	山口素絢	絹本著色	一幅	文化六年 (1809)	
74	76	児島湾真景図	こじまわんしんけいず	池大雅	絹本著色	一幅	江戸中期	
75	77	富士望見図	ふじぼうけんず	青木木米	紙本墨画淡彩	一幅	文政七年 (1824)	
76	86	鼠婚礼図	ねずみこんれいず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	寛政八年 (1796)	
77	88	群鶏図	ぐんけいず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	寛政八年 (1796)	
78	85	萬歳図	まんざいず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
79	89	里芋図	さといもず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
80	78	雪中雄鶏図	せつちゆうゆうけいず	伊藤若冲	紙本著色	一幅	江戸中期	
81	79	糸瓜群虫図	へちまぐんちゆうず	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	
82	87	虻に双鶏図	あぶにそうけいず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
83	83	海老図	えびず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
84	91	踏歌図	とうかず	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	
85	80	風竹図	ふうちくず	伊藤若冲	絹本著色	一幅	江戸中期	
86	92	宝珠に小槌図	ほうじゆにこづちず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
87	90	関羽像	かんうぞう	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
88	81	仔犬に箒図	こいぬにほうきず	伊藤若冲	紙本墨画	一幅	江戸中期	
89	84	伏見人形図	ふしみにんぎょうず	伊藤若冲	紙本著色	一幅	江戸中期	
90	94	釣瓶に鶏図	つるべににわとりず	若演	紙本墨画	一幅	江戸後期	
91	93	遊鶏図押絵貼屏風	ゆうけいずおしえりびょうぶ	若演	紙本墨画	六曲一双	江戸後期	
92	82	花鳥図押絵貼屏風	かちょうずおしえりびょうぶ	伊藤若冲	紙本墨画	六曲一双	江戸中期	

伊藤若冲(いとうじゃくちゆう) 略歴

正徳6～寛政12年(1716～1800)

京都高倉錦小路の青物問屋、榊源の長男に生まれる。他に、景和、汝鈞、斗米庵、心遠館などと号す。数え23歳の時、父の死去に伴い家督を相続、四代目榊屋源左衛門となる。一方趣味の絵画制作が次第に本格化して、40歳を機に家督を弟に譲り、以降独創性に溢れる絵画世界の展開に没頭する。天明8年(1788)の京都大火で痛手を被ったが、晩年は深草の黄檗寺院、石峯寺の門前に隠棲し、制作三昧の日々を過ごした。代表作に「動植綵絵」(相国寺へ寄進、現在は宮内庁三の丸尚蔵館蔵)、大阪・西福寺襖絵など濃彩の連作・大作が知られる。